

Stella Maris 第141号

宇都宮海星女子学院中学校・高等学校
2020年（令和2年）5月20日

この「Stella Maris」（ステラマリス）は、カトリックミッションスクールである本校の特色を発信するお便りです。タイトルの「Stella Maris」とは、ラテン語の「海の星」という意味を表す言葉で、聖母マリアを表します。

今回は、5月29日（金）に予定されていたマリア祭や聖母月について、また復活祭（イースター）について紹介します。

復活祭について

年間行事計画表に記載の通り、先月4月12日（日）はキリスト教の暦では「復活の主日」という教会の最大の祝日でした。イエス・キリストは十字架の上で亡くなりましたが、3日後に復活されました。この「ご復活」を祝うのが「復活祭」です。ご復活は英語では「イースター」で、最近ではイエス・キリストの誕生を祝うクリスマスと同様に教会以外でも名前を聞く機会が増えました。ゆで卵の殻に彩色やきれいな包装をほどこした「イースターエッグ」を見たことがある人も多いと思います。これも復活祭の楽しい習慣で、卵の殻を破って誕生するヒナと、墓から出て復活されたキリストのいのちとが結びつけられて広まった習慣であると言われています。

新型コロナウイルスの感染が拡大している現在、この状況をイエス・キリストの「死」に、またウイルスに打ち勝つことを「復活」になぞらえることができるかもしれません。しかし、イエス・キリストの「復活」とは、ただ息を吹き返した「蘇生」ではなく、「新しいもの」となったことを表しています。「早く元通りの生活に戻ってほしい」という思いがあるかもしれませんが、ただ元通りにするのではなく、この困難を乗り越え、得た教訓を生かし、より良い「新しい世界」にしていけることが大切なのだと思います。まずは、今回気づかされた当たり前だと思っていたことへの感謝を、これからも忘れずに生活していきましょう。



マリア祭

カトリック教会では、5月を「聖母月」(せいぼげつ)として過ごします。この「聖母」とは、イエス・キリストの母であり、海星の保護者でもある聖母マリアのことです。四季折々の中でも、春の訪れとともに花が美しく咲く5月を、聖母マリアに思いを寄せ、祈りを捧げる月としています。

本校でも、毎年この「聖母月」である5月に様々な取り組みをしています。例年は、朝礼時のお祈りに代えて聖歌を歌ったり、校内のマリア像に学年ごとに花を捧げたりしていますが、今年度は休校で実施できないため、教員でマリア像に花を捧げ、美しく保っています。

そして、5月の最終登校日には、マリア祭と創立記念式を行っています。マリア祭ではミサを行い、その中で一人ひとりに書いてもらった保護者の方への感謝やお祈りを捧げています。また、本校の創立記念日はカトリックの暦で「無原罪の聖マリア」という祝日である12月8日ですが、聖母月である5月に、マリア祭と併せて創立記念式を行っています。

今年度は、学校行事としてマリア祭や創立記念式を実施することはできませんが、「聖母月」であるこの5月、私たちも聖母マリアの清く美しい姿、そして信じ抜く心を持った力強い姿に倣って過ごしましょう。



新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

日本カトリック司教協議会より、「新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り」が発表されましたので紹介します。改行は紙面に合わせて変更しています。

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大によって、今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、感染の終息に向けて取り組むすべての人、医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、尽きることのない安らぎに満たされますように。不安と混乱に直面しているすべての人に、支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、世界のすべての人と助け合って、この危機を乗り越えることができるようお導きください。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。